



道徳通信

教員用

No. 21

平成29年4月26日発行
道徳教育推進委員会

平成29年度がスタートして約1か月経過しようとしています。今年度は昨年度と異なり、県の研究指定校となり、1年間をかけて道徳教育の研究を推進することになりました。

実際に、どのようなコンセプトでどのような研究とするかについては、現在、現状を把握した上で、最終的な内容を確定したいと考えており、そのための準備を進めているところです。

研究推進のための準備（その1） 道徳アンケートの実施

1年生の各クラスと希望する3年生の2クラスに道徳に係るアンケートを実施することをお願いしているところです。

このアンケートは、生徒の4月時点での状況と指導後の変容を検討する上での基準となるデータ収集（優れている点、伸ばす必要がある点）が主な目的です。

質問項目は、現行の学習指導要領（中学校）の道徳の項目24項目で構成しています。新学習指導要領での「特別な教科道徳」では22項目に再構成されていますが、それにも対応できる体制は整えてあります。

強化すべき点を見極め、どのような形で、どのようなアプローチをしていくのかを検討していく予定です。

研究推進のための準備（その2） LHRでの道徳授業の方法について

過去2年間のLHRでの授業の実施状況を検証して、今年度は以下のような形で、授業を

実施していければと考えています。

LHRでの道徳授業は7回程度を予定していますが、授業担当者は、1年間をかけて、同じ授業を学年全クラスで実施します。

このスタイルのポイントは以下の点です

①年4回実施で教材の指導ポイントがつかめる

異なるクラスでの指導の工夫や取り上げる教材の効果的な指導方法見極め、今後の道徳指導のノウハウを蓄積したいと考えています。

②教材研究の負担感の軽減と同僚性の構築

担任のみが毎回苦労する体制を打破すること異なるクラスを相手にすることで、学年の生徒の様子を共通の話題にできることなど、道徳教育を通じて、生徒理解が深化することが考えられます。

また、学年の授業を実施しない先生方には、教材作成を年間の研究として、独自教材を一つ考えていただこうと思っています。

③年間指導計画の透明化と指導項目の平均化

委員会の対応として、相当の負担になっていた、指導項目の分散化が、全クラス共通になり実施項目もそろえられることから、年度当初の教材選定がスムーズに進めば、委員会の仕事が大幅に軽減できるものと思われます。

今年度の取組を踏まえながら、過去2年間の取組のマニュアルをさらに改良し、誰が担当しても、道徳教育推進教師が現状を維持できる体制を整えることも併せて進めていきたいと思えます。

いろいろと御迷惑をおかけするかもしれませんが、今年度もよろしくお願ひいたします。